



半田銀山は江戸時代、「三大鉱山」に数えられるほど栄えた。半田銀山史跡公園には、明治時代、銀の鉱滓を運ぶための軌道と奥州街道が立体交差するために架けられた女郎橋の石垣が遺跡として残されている。



奥州街道と羽州街道の分岐点「追分」。平成18年に整備されて以来、訪れる人は後を絶たない。



伊達氏始祖朝宗の墓所。桑折を本拠地として、伊達氏が誕生した。



西根上堰と産ヶ沢川の合流点。約400年前ほどから長く安定した用水を確保している。

歴史文化を活かした まちづくりへ

まちの遺産を未来へ

交通の要所として栄えた 政治経済の中心地

桑折町は、仙台藩伊達氏発祥の地として知られ、奥州街道・羽州街道の分岐点の宿場町として繁栄しました。江戸初期、米沢・伊達郡を含む米沢30万石に減封された上杉氏領の時、郡役だった佐藤新石衛門たちは新田開墾の

ために、農業用水「西根堰」を造りました。さらに、半田銀山の開発や畜産生産を奨励し藩の財政を立て直しました。貞享2年(1685)に、幕府の陣屋が桑折町に置かれました。それは幕府が桑折町を、政治経済の中心地として重視していた証です。当時「桑折」の名は、江戸や上方にも知られるほどでした。

活気にあふれた街道や半田 銀山を語り継ぐ

羽州街道を通過して、街道の分岐点道分(を)を参勤交代で通過する諸大名は十数家にも上り、街道は大いに賑わいました。また、多くの文化人が賑わうことで、人や物だけでなく、文化や情報も行き交い、これが日本各地の学問や技

術などを宿場にもたらし、町に活気を与えました。「江戸時代の桑折町民の文化レベルは高かった」と、町の郷土史研究者・鈴木文夫さんは話しています。町では、街道を通じて交流を深めている他地域の活動に触発され、平成18年、「追分」を整備しました。以降、往事をしる場所として親しまれ、この地を訪れる人は後を絶ちません。句碑に刻まれた「夕暮れに心を通う柳かな」に、この道分を見守る猪俣好巳さんは「ここは昔から人々が集い、心を通わせる場所だった。これからもそうあってほしい」と思いを寄せ、書籍「桑折学の手ずみ」の編纂に携わった渋谷浩一さんは「小学校高学年以上の子どもたちにも町の歴史に親しんでほしい」と次世代への継承に期待を寄せます。

江戸時代からの半田銀山の繁栄は、明治9年(1876)に明治天皇も行幸されるほどでした。交通の要衝に位置していた桑折は、明治16年には「伊達郡役所」が置かれ、郡一帯の政治の中心地となりました。その木造擬洋風建築物は、現在も国指定重要文化財として現存し、町のシンボルとして親しまれています。

現在、奥州街道は県道で、商店が立ち並ぶ町のメインストリートとなっていますが、土蔵など、宿場町の繁栄を今に伝える歴史的建造物が点在しています。その線形は、江戸期の絵図に描かれた奥州街道の当時から大きく変わることなく残され、鉤形に曲がる箇所に残された旧伊達郡役所が、ランドマークの役割を果たしています。



町のシンボルとして親しまれている旧伊達郡役所。当時の熱心な誘致運動により設置が決定し、建築費用はすべて町民の寄付によるものだった。



右から鈴木文夫さん、猪俣好巳さん、渋谷浩一さん
奥州・羽州街道分岐点(追分)にて。各氏は、街道にまつわる町の歴史文化について研究。冊子の編纂や町内外の歴史交流会に関わり、歴史の町並み再興にも大きく尽力している。

歴史ある祭りの継承

地域の歴史ある祭りとして、伊達氏の守護神として800年の歴史を持つ桑折の総鎮守である諏訪神社の祭礼が、毎年7月27、28日に例大祭として継承されています。この祭りは豊作を祈願し、山車5台が2日間町内を練り歩き神輿と山車のぶつかり合う勇壮な祭りとして知られ、6年に1度、御柱祭りが行われています。

「奥州街道・羽州街道追分の復元」や「店蔵を活用した交流拠点「桑折御蔵」の運営」などで、地域住民と町が協力し、歴史的な環境に係る取り組みを積極的に進めています。県道沿いを中心に、町屋や土蔵などが残っており、「桑折御蔵」と名づけられた店蔵は、大規模な外観修理が行われ、交流発信拠点として活用されています。奥州街道、

伊達ロマン 桑折西山城跡を後世へ

羽州街道追分にあつては、平成18年に資料等に基づいた整備が行われ、江戸期に現存した道標を復元しお休みどころが建てられ、平成19年に国土交通省の「手づくり郷土賞」を受賞しました。

また、戦国期に伊達氏の14代種家(たねけ)が構えた町の北西部の広大な山城、この居城跡の山城は、「桑折西山城跡」として平成2年に国史跡に指定されました。現在は、史跡公園としての整備のための発掘調査が終了し、戦国時代の堀などを史実に基づいて整備し、周辺に駐車場や道路等の整備を行う「歴史的風致維持向上計画」の認定にむけて取り組んでいます。



戦国大名伊達氏の本拠地桑折西山城跡。史跡整備に向けて発掘調査が行われた。